

# 和歌山県租税教育推進連絡協議会賞



## 税が支える私たちの暮らし

和歌山県立古佐田丘中学校 三年 大野 瑞夏

幼い頃から、図書館が好きだつた。読書が趣味であつた私にとつて、たくさんの本を無料で楽しむことのできる図書館は、とても魅力的な場所だつたのだ。それと同時に、幼い頃の私には、図書館は不思議な場所でもあつた。世の中には本屋というものがあつて、そこではわざわざお金を払つて本を買うと、いうのに、ここではなぜ無料なのだろう、と。

私がその「不思議」を解消したのは小学校四年生のときだつた。税についての教室が授業の一環として行われたのだ。そこで私は初めて、図書館の本は税金によつて賄われていると知つたのだつた。これまで税といえれば、消費税などの「自分たちが払う」ものという印象が強かつた私にとって、その発見は衝撃的だつた。「私達の生活のために使われている税」の存在を知つたのだ。これまで払うだけでその行方など気にもとめていなかつた税が身近なものとなつた瞬間だつた。

それから、図書館に行くたびに、私は、図書館の本と税の関係を思い出すようになつた。この本は全部、これまで煩わしさすら覚えていた税金で買われていて、無料で読むことができる。漢字が得意になつたのも、活字を読むのが早くなつたのも、図書館のお陰だつた。そして、その図書館を支えているのが税だ。そう思えば、何気なく手に取つていた図書館の本が、一気に重みのあるものになつたような気がした。

もしも税がなくて、図書館が存在しなかつたとしたら、私の生活はどうなつていただろう。読みたい本はすべて、自分で買わなければいけない。そうなつてしまえば、手の出すことのできる本の範囲も限られ、自分が身につけられる知識も偏つたものになつてしまうだろ。それは、私の人生をガラリと変えうるかもしれない、僅かに恐怖すら覚える可能性だつた。それほどまでに、図書館は私にとつて生活を豊かにするための重要な存在であり、それと同時に、税も私にとつてはとても大切なものであつたのだ。

「私達の生活のために使われている税」は、他にある。例えば、学校での勉強になくてはならない教科書も税金によつて支給されているし、理科の実験教材などもそうだ。これらが全て家庭の負担となれば、学校に通うことができない人も現れるだろ。こうしたところでも、私達の生活は税に支えられているのだ。

一括りに「税」というと、「払わなければいけないもの」としてマイナスなイメージを持つ人も多いだろ。しかし、身の回りを見渡せば、税があるからこそ成り立つ、生活を彩るものはたくさんある。

私は、これから的生活で、税がどこに利用されているのかを意識することが大切だと思う。皆がそれを意識することで税の重要さは自ずと浮き彫りになつていくはずだ。

「税」とは、私達の生活を豊かにするとても大きな柱の一つなのだ。